

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1970101745
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム 甲府増坪
所在地	〒 400-0832 山梨県甲府市増坪町338 電話番号 055-242-0655

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年9月14日	評価確定日	平成19年12月14日

## 【情報提供票より】平成19年4月1日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月1日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	16人	常勤	11人	非常勤	2人	常勤換算	5.6人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造ALCタイル張り 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有( 200,000 ) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 800 円			

## (4) 利用者の概要 平成19年4月1日 現在

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	9 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低	59 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	甲府市立病院 清水歯科
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年9月20日

四季折々に変化する御坂山脈と甲府盆地の中間点に近代建築で目立つ色彩の2階建て施設がある。駐車場や中庭は区画整備され施設内も広くはないが各部屋、風呂場、トイレ、会議室など細かい配慮を感じる間取りがある。1階と2階に別れた2ユニットで居間は利用者が自由にくつろげる空間となり団欒の場となっていた。職員は常に利用者の安全を願い可能性をいかした介助に心がけ喜びや楽しさを共有していた。管理者は系列から移動してきており介護の質の向上に意欲的である。家庭的な雰囲気醸成し職員全体が輪となりおしまぬ努力の姿勢が伺えた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	0
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	① 自己評価の作成を管理者が職員の意見をききながら作成したが、これから職員全体の取り組みが必要。一度に出来ない作業なので割り振りをして仕事を分け合い徐々に職員全体が関心をもつように工夫するとより良い質の向上に繋がる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	② 行政担当者に運営推進会議に参加をして頂き施設の状況を見てもらう。運営推進会議は定期的に地主、包括センター、市会議員、家族、民生委員、ホーム長職員で改善に向けての取り組みを話し合っている。清掃活動があれば参加するなど、もう少し積極的に地域住民との関わりが深められるよう期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	③ 本部から直接家族にアンケート調査が郵送され多種多様な意見をいただいている。家族が面会に来たときは担当者が生活状況や出来事を伝えている。また家族が心配している事など気軽に相談に応じている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	④ 地域の花植えやどんど焼きの行事に参加している。毎日のお散歩で言葉を交わす人もいる。幼稚園や学校が近ければ子供たちとの関わりがもてるが遠方なのでふれあいが少なく残念。地域の交流は利用者から積極的に出向くように心掛けている

## 2. 調査報告書

事業所名: 愛の家グループホーム甲府増坪

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いつも笑顔で「その人らしい我が家の生活」を理念に掲げている。入口の掲示板に明示しホームの関係者は常に見直し利用者の支援に携わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	縦のつながりより横のつながりを大切にしている。利用者に肌で接している職員の意見を常に重視して基本理念の確認をミーティングや毎日の申し送りの時に行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	晴天の時は毎日のように散歩に出掛けている。近所の人に会えば笑顔で言葉をかわすように努めている。地区の運動会やどんど焼き、花植えなど、お誘いがあれば喜んで参加し利用者の住民である意欲を発揮できるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年1度の外部評価をミーティングの時、職員に報告している。改善につながる具体案を話し合い質の向上を図っている。現在自己評価は管理者と主任が責任を持ち記入している。	○	自己評価の取り組みは職員全体で行う。マンネリ化した日常に気づいて改善する事ができる。自己評価のレベルアップと質向上の為、次回からは全員協力での取り組みを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市議員、行政担当者、家族、地主、地域包括職員、民生委員、施設のオーナー管理者、職員で行う。心安い市議員が困っていること(交流会)など多種の相談に協力的で助かっている。	○	利用者の家族会を設立してつながりを深めたい。また定期的に施設のモニター等を依頼して希薄になりがちな親族とのつながりを願う。今後ホームでは地域の認知症相談窓口になれるような方針も考えている所であり地域住民との繋がりがよりいっそう深まるよう事に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者と細かい連絡をとりあっている。施設側からのお誘いやお願いを提出している。	○	ホームで作った新聞等を行政窓口へ届けている。施設側から積極的に出向き運営の実体や要望、問題を相談する。行政との繋がりは大切なので諸問題を共有し質の向上を図るような取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の担当職員が、近況報告やお便り、現金出納(領収レシート)を送付している。また面会が多いのでその都度、利用者本位の姿、楽しんでいる生活状況を伝え必要な書類などお渡ししている。	○	ホーム独自の新聞を送付しているが健康診断結果や生活状況変化をお知らせする事を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本部から家族アンケートを送付し家族に率直な意見を聞き苦情処理にその都度対応している。また面会の時に希望や要望を受けつけ利用者や家族、職員でより暮らしやすい施設の運営に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	身内のように信頼感のある職員の異動は最小限にしている。顔馴染みで心やすい職員の異動は利用者の不安を招く。系列内異動がある場合は職員間の引継の期間を充分もうけ利用者に理解を得、混乱を避ける工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の研修会通知により管理者が主に受講している。その後、全体会議で発表している。研修内容を職員がいつでも閲覧し勉強できるようにしている。	○	大手グループホームなので独自の研修や参考資料を発行すると向上につながる。臨時職員については現場優先となり研修が受けにくい。他所の介護者と交り別の視線から見つめることにより、より質の高い介護ができるよう期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のホームと年4回研修会議を行っている。	○	県内4カ所にある施設なので系列とのつながりはあるが他事業所の交流がもてていない。近所にある施設と連絡を取り合いふれあう機会をもうけるなど介護者同士が新鮮な出逢い緊張感で元気を得てサービス向上に繋がるような取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前、家族と利用者に来て頂き施設の雰囲気視察して慣れて頂く。利用者の住み慣れた環境を把握するために職員が自宅に向く。不安を抱える家族、入居者は体験入居があり巾広くお迎えする心構えがある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑のナスを収穫したり玄関に花を生けて頂いたり出来る作業をして頂く。利用者が身体で覚えている作業は言葉は無くても職員の学びとなっている。「暑くて大変だね」と労いのある言葉や思いやりに感謝の念が多く伺える。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	水洗いで干す下着を「乾燥機で早く乾くようにしましよう」と傷つけない思いやりで素早く洗濯機で洗い直し手渡す細やかな職員の配慮が伺えた。利用者の希望を聞いて実行「よかったよ、ありがとう」の反応がたえず響くようつとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の見直しは担当職員の意見を中心に職員全員が意見を出し合い主任と管理者で作成する。面会に来た家族の意見や希望も取り入れ現状に最適な計画作成をしている。利用者の変化や気づき、対応を細やかに記録した連絡帳も活用している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者が利用者の変化に気づき管理者が確認した上で介護計画の見直しをしている。家族の要望、希望が発生したら検討会で諮り計画変更をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	時間制限なしの面会や外泊を心良く対応している。冠婚葬祭、通所、お墓参りなど利用者が望み家族の同意があれば職員が同行する。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な健康診断はしていない。主治医が往診に来て健康状態をみてくれる。基本的に病院は家族と行くが都合で職員が同行する時は家族の同意を得て対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設独自の重度化に伴う意思確認書がある。入居契約の時家族の同意書を頂く。家族と主治医、看護師、担当者と協議して最良の方向に向けて話し合いを行う。	○	将来家族の意思確認書に基づきターミナルケアまで対応できる受け入れを模索中である。利用者家族の希望を把握した上で利用者が人生の幕を閉じる時、穏やかに静かな終末期をお迎えできるような方針ができるような方向づけを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事細やかに記載した一日の連絡ノート。勤務交代の時に目を通して介護につく。全職員が連絡ノートを活用共有している。ミーティングや勉強会の折りにふれ管理者は利用者のプライバシーや自尊心を損なわないよう伝達している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	部屋にいっぱい人形を置く、家族の写真を貼っている、作品を飾る利用者。それぞれ個性豊かな独自の部屋を垣間見た。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	カロリーや色彩を専門家が考慮したメニューが本部から送られてくる。利用者の得意な米ときや野菜切り配膳を協力しあい食事の準備をする。片付けも食べ終わった人から順に自分でお盆にのせて片付けていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の勤務状況で午後の時間帯、明るいうちに入浴をしている。利用者の体調や希望を取り入れ入浴支援をしている。	○	健康な人間は就寝前の入浴が一番気持ちよい。利用者の意向を聞き夜の入浴も可能となるような工夫を期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	指先を使う手芸など職員が作っていると真似をして手伝う。強制や無理矢理の作業はせず自己判断で行動している。カラオケなどの歌詞カードも活躍している様子が伺えた。その時季の梅干や干し柿づくりで季節感を味わっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝の散歩は、お天気具合で毎日行う。近所に適当な店がないのでショッピングが不便。外食は気分転換になりファミレスで知らない人と会い緊張感にもなる。職員と利用者が好きな物を食べ共生共有の時を実感できる。お出かけを共に楽しみにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊する入居者がいて一度迷子になった事がある。ドアは自動ロックで施錠される。	○	帰宅願望の強い利用者は一途に外にでるが、センサーか鈴、ベルなどを設置して様子を見る。職員の心配りで出入り自由な開放された出入口の工夫を希望する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震や火事、災害対策のマニュアルがある。年2回地区の消防署に来て頂き救急法を実地訓練している。	○	身体で覚える訓練は大切な事。避難訓練の回数を増やし何分で全員外に出られるか。避難場所の確保、特に住宅が側にあるので近所の応援体制の取り組みを真剣に検討し大事故発生を未然に防ぐ努力をして手本となる改善措置を早急に検討する事を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給やカロリー不足にならないように食量をチェック表に記録している。食事内容も写真に写し書類に記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間はのんびりやすらげるようにテレビや利用者の写真集がおかれていた。時を知らせる日めくりや広い窓から黄金色に実る稲穂が秋の訪れを知らせていた。食事時は料理の匂いテレビの歌声、田園風景など五感を共有する共用空間で利用者は話をしたり自由に過ごしていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者はお気に入りの人形や写真を飾り独自の部屋づくりをしていた。昼寝もそっと部屋にもどり横たわる姿は住み慣れた自分の部屋という感じだった。		